

## ISO Excellence Awardの受賞について

公益財団法人鉄道総合技術研究所の職員が、鉄道分野における品質マネジメントシステムに関する国際規格の開発への貢献に対し、ISO（国際標準化機構）より「ISO Excellence Award」を受賞しました。表彰式はストックホルムで開催されたISO/TC 269の総会にあわせて6月14日（金）に行われました。

ISO Excellence Awardは、ISOが発行した国際規格において際立った貢献活動を行った技術専門家に対して授与されるものです。

### ○ISO Excellence Award

【受賞者】 鉄道国際規格センター 次長 のざわ ひろゆき 野澤 浩之

【主な功績】 ISO/TC 269（鉄道分野）/WG 5（鉄道品質マネジメントシステム）の技術専門家として6年間にわたって活動して、ISO 22163「鉄道品質マネジメントシステム」\*の開発に貢献しました。また、WG 5に参加する日本チームを統括し、他国の技術専門家と優れた協力関係を築きました。

\*国際規格ISO 22163「鉄道品質マネジメントシステム（RQMS）」は、鉄道関連製品の品質を高めるため、一般的な品質マネジメントシステムの国際規格であるISO 9001に鉄道固有の要求事項を追加したもので、2023年7月に発行されました。



ISO Excellence Award受賞者 野澤浩之次長（写真中央）：  
（右：田中議長（ISO/TC 269），左：Kamps委員会マネジャー（ISO/TC 269））

## 第35回電波功績賞 総務大臣表彰の受賞について

公益財団法人鉄道総合技術研究所は、株式会社日立国際電気、早稲田大学、国立研究開発法人情報通信研究機構、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所とともに「第35回電波功績賞 総務大臣表彰」を受賞し、その表彰式が、6月25日(火)に、東京都千代田区(ホテルニューオータニ東京)において行われました。表彰式には、情報通信技術研究部 通信ネットワーク研究室長 中村一城が出席しました。

電波功績賞は、電波の有効利用に関する調査、研究、開発において画期的かつ具体的な成果をあげた者、あるいは電波を有効利用した新しい電波利用システムの実用化に著しく貢献した者に対して、一般社団法人電波産業会により授与されるものです。

### ○第35回電波功績賞 総務大臣表彰

【受賞業績】 90GHz帯 滑走路面異物検知システムの開発と実証

【概要】 航空機の離着陸時安全性確保に向け空港滑走路面異物検知用の90GHz帯レーダーシステムを開発\*して実環境で所期性能を実証し、国際標準化ではITU-R WP5Bで当該システムの規格化を推進するとともに、社会実装に向けて日本とマレーシア間の産学官連携スキームや実証実験システムを構築して制度化完了後の迅速な実用化準備を整えるなど、電波の有効利用に大きく貢献した。(出典：一般社団法人電波産業会)

\*鉄道総研は、当該システムの滑走路以外への適用例として、監視面が平坦ではない鉄道線路内の監視システムとしての応用検討に取り組み、装置開発に貢献しました。



第35回電波功績賞総務大臣表彰 受賞者の皆様(左から2人目:中村一城室長)

# 第58回SATA年次会議を日本で開催しました

第58回SATA Annual Meeting (国際亜音速空力試験協会年次会議) を、6月2日～6日に京都で開催しました。

## 1. SATAについて

SATA (Subsonic Aerodynamic Testing Association) は、大型亜音速\*風洞に関する会員制の協会で、このカテゴリーの風洞を所有している世界の公的研究機関、航空機や自動車メーカー、大学など93団体(2024年6月6日時点)が加盟しています。

鉄道総研では、滋賀県米原市に風洞技術センター(以下、「米原風洞」)を設置し、大型低騒音風洞を用いた高速鉄道の空力騒音、空気力学的諸課題の研究開発を行っており、1998年にSATAの会員になりました。

SATAの主な活動は、毎年6月上旬開催の年次会議(Annual Meeting)における議論や情報交換で、日本での年次会議の開催は、1998年、2012年に続き3回目となり、今回は鉄道総研が主催しました。

\*音速より低い風速

## 2. 会議の開催概要

- ・日程：2024年6月2日～6日
- ・開催場所：都ホテル京都八条(京都市)、米原風洞(米原市)他
- ・参加者：76名(19ヶ国54団体)
- ・発表件数：38件



写真1 ウェルカムスピーチを行う古川敦理事

会議では4日間で11のセッションが行われました。6月3日のセッションでは、鉄道総研の古川敦理事によるウェルカムスピーチが行われました(写真1)。



写真2 会議の様子

その後、風洞技術者や研究者による、大型風洞を活用した研究開発、新たな風洞実験方法、風洞設備の維持管理などについて、発表と議論が行われました(写真2)。鉄道総研からは、米原風洞を活用した3件の成果を発表しました。

また、6月4日には、米原風洞における最高風速(400km/h)での送風などを見学するテクニカルビジットが行われました(写真3)。

次回の第59回SATA年次会議は、2025年6月に米国サンフランシスコ(主催: National Aerospace Solutions)で開催される予定です。



写真3 米原風洞の見学